

宗像のご紹介

宗像は、福岡市の北にある沿岸部の地域です。玄界灘に面し、山に囲まれています。宗像地域には、神社・古墳・聖なる島を含む世界遺産があります。

南郷地区

南郷は、宗像の東側部分にあり、福岡に最も近い地区です。江戸時代（1603～1867 年）に福岡と佐賀をつないでいた唐津街道は、この地区を通っています。原町の伝統的な町並みが残っています。

玄海・赤間地区

海岸沿いの玄海地区には、漁港と浜辺があります。宗像大社三宮の中で最大の辺津宮は玄海地区にあります。内陸の赤間地区は山に囲まれています。歴史ある唐津街道において、江戸時代に宿場町だった赤間宿はこの地区にあります。

宗像の島々

大島と地島は、神湊港から船で簡単に訪れることができます。大島には、中津宮と沖津宮遥拝所という 2 つの神社があり、第二次世界大戦時の砲台の跡があります。地島は、椿の林と歩きやすいハイキング道で知られています。

世界遺産

宗像は長い間、船乗りたちがアジアの大陸に旅立つ前に安全を祈る重要な場所でした。沖に約 60km 離れた聖なる島である沖ノ島では、4 世紀から船乗りを守る儀式が行われていました。この儀式は、神道の最初期の実践例として知られているものの 1 つです。沖ノ島と、宗像にあるその他の宗教的な場所は、2017 年に "「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群" として世界遺産に指定されました。

世界遺産には、宗像大社（宗像三女神を祀る3つの神社）、「神宿る島」沖ノ島、およびこの地域を16世紀まで統治した宗像氏の古墳約40基が含まれています。